

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------|----|---------------|
| ○事業所名 | SEDスクール JR吹田駅前 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年 10月 15日 | | 2024年 10月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 35 | (回答者数) 25 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年 10月 15日 | | 2024年 10月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024年 12月 24日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 毎回の保護者との振り返りの時間がありお子さまのご相談にのることができる。 | 個別支援計画を常に指導員・保護者双方で確認できるよう、その日のプログラム紙面とは別に用意し、お子さまの状態を確認できるようにしている。 保護者から聞いたお子さまの情報を振り返り時に共有している。 | 保護者の困りごと（お子さま自身のことやお子さまの環境面、保護者自身の生活など）に対して、事例をもとにした、具体的な助言ができるような知見を各職員が得ること。 保護者の困りごとに継続した形で職員が共有引継ぎしながら経過を見守ること。 |
| 2 | 就学の相談に対応してくれている。 | 就学に関連する自治体から寄せられる情報などを提供しながら、保護者と相談対応している。 | 近隣各自治体の就学に関しての情報を職員間で共有しながら、保護者への情報提供をレスポンス良く対応できるようにしていく。 就学については年長児だけではなく、年中児保護者への参考資料として掲示物などを検討する。 |
| 3 | 個別に応じた細やかな対応をしてくださる。 | 各お子さまを取り巻く環境（通園先・通院先・発達検査・就学・就学）について、振り返り時に各指導員が保護者からヒアリングし、必要であれば児童発達支援管理責任者や事務員を軸に保護者への情報提供や園訪問、受診同行などを行っている。 可能であれば療育プログラムにも反映している。 | 社会資源の情報提供をおこなっていただけることが望ましいか。セッション意外のお子さまの個別情報の職員間共有をはかることが必要。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 運動活動をおこなうスペースに課題。 | 運動活動における遊具のセッティング箇所が決まっているため、その中で複数名の児童プログラムを展開した場合、干渉しあうことが起こりやすい。 | 遊具の他児との共有や、使用時の個人間タイムラグを設ける、遊び方を変えるなどして対応している。 |
| 2 | 保護者間の交流の機会提供に至っていない。 | 保護者同士の交流についての要望が過去にもほぼ無い。 保護者同士の相性的な観点から、保護者から相談が生じたこともあるため交流機会を提供することは慎重を要す。 働いている保護者も多く時間的にも制約が生じる。 | 就学前や就園前などを交流テーマとしながら、関連する情報提供を主軸としながら保護者間での交流につなぐことができるか検討する。 |
| 3 | 集団（グループ）療育の定期的な開催頻度が少ない。 | 個別療育を軸としていることや、集団プログラム設定日時の制約（個々人の生活面での移動日時の制約など）により頻度をあげることが難しい状況。 | ニーズに添えるように固定日時は一旦外しつつ、各利用者に向けて集団プログラムの告知など行いながら、柔軟に集団療育設定を作っていく。 |